

わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

67



『わが街で暮らし続けるということ』は、誰もが理想として
いることだと思います。しかしな
がら、いろんな事情でそれが
かなわないこともあります。高齢
になり認知症を患い、誰かのサ
ポートがなければ自宅での生活
が困難になる場合があります。
そのような場合の選択肢に介護
施設等への入所（入居）があり
ます。特に認知症を患っている
場合には高齢者グループホーム
（認知症対応型共同生活介護）
という施設があります。ここで
は近年諏訪地域でも増えている
高齢者グループホーム（以下、
グループホームという）につい
てお伝えします。

グループホームは介護保険制
度の地域密着型の入所型介護施
設です。入所条件は施設で異な
りますが、基本は認知症疾患が
ある要支援2から要介護5まで
の介護認定を受けている方が対
象です。少人数（5人から9人）
をケアの単位とし、居室は個室
です。特徴は、家庭的で落ち着
いた雰囲気の中、食事の支度や

掃除、洗濯など日常生活行為を
利用者やスタッフが共同で行う
ことにより、認知症状が穏やか
になり安定した生活と本人が望
む生活の実現を目指していま
す。少人数で行うケアのメリッ
トは、スタッフと利用者がなじ
みの関係を築きやすく、安心で
きる空間の中で居場所や役割が
できます。そして認知症になっ
て薄れていた能力を再び引き出
すような支援ができます。例え

高齢者複合福祉施設とよだの杜 統括施設長
(株)創生環ライフケアサポート 代表取締役

いま むら たか お
今村 貴保

家庭的な雰囲気の中で自分らしく グループホームの支援



調理などできる作業を声掛けや見守り支援をすること
で、能力の維持ややりがいを引き出しています。日常生
活の中でできることをできる範囲で支援しています

ば、料理を作ることが困難にな
っていた方が、野菜を切るため
に包丁を握ると、見事な千切り
やかつら剥きを披露することが
あります。これは料理自体がで
きないと捉えるのではなく、献
立を考え、材料を揃え、調理し
味付けをするという作業の組み

立てや過程の一部が困難と捉
え、できる作業を声掛けや見守
り等の支援をすることで、能力
の維持ややりがいを引き出して
います。調理に限らず、日常生
活の中でできることをできる範
囲で支援しています。施設によ
っては、一緒に買い物に出かけ

たり、畑で野菜やお米を作った
りと楽しみの中で外出の機会を
確保しています。

また、グループホームで最期
を迎えるという選択もできま
す。本人の希望や家族、医療機
関等と連携を図ることでターミ
ナルケア（終末期ケア）も可能
となっています。

このようにグループホームで
は、なじみの関係の中で利用者
が生きがいや居場所を感じ、認
知症があってもその人らしい生
き方が実現できるよう最期まで
支援をしています。しかし、コ
ロナ禍を経て、配慮しなければ
ならないことなども増え、工夫
しながら支援をしている現状も
あります。

今後、高齢者の増加とともに
認知症を抱える人の増加も予想
されます。認知症になってもそ
の人らしく住み慣れた場所で暮
らせるように、地域包括ケアシ
ステムの中で介護施設としての
役割を『ライフドアすわ』と連
携しながら果たしていきたいと
思います。

高齢になると、自分に残され
た人生をどのように生きていく
のか、そして暮らしていくの
か、家族や多職種の方々と交え
て話し合っておくことが大事で
す。お元気な頃から一緒に考え
てみませんか。

（毎月第2日曜日掲載）